

# 月刊 インド



Monthly Journal of the Japan-India Association

公益財団法人 日 印 協 会（日印間の政治・経済・文化交流に貢献して 112 年）



＜共和国記念日出席のオバマ大統領夫妻を出迎える  
ムカジー大統領及びモディ首相 1月26日 ニューデリー＞

Source: HP of Prime Minister of India

## 目次

- |                          |       |
|--------------------------|-------|
| 1. インド、小さな旅、長い旅への想い…………… | P. 3  |
| 2. インドニュース(2015年1月)…………… | P. 7  |
| 3. イベント紹介……………           | P. 12 |
| 4. 新刊書紹介……………            | P. 14 |
| 5. 掲示板……………              | P. 15 |



# 1. インド、小さな旅、長い旅への想い Dreaming of India; a Small Trip to the Long Journey

日印協会個人会員 大木 香奈

## ■はじめに

私は2012年4月に企業人となり、インド火力発電所建設プロジェクトの営業を担当することになった。その年の10月～12月の3ヶ月間、ハリヤーナ州グルガオンの現地法人で研修を受けた。北部インドの顧客訪問、発電所運転状況の視察、電力インフラ(石炭採掘場、石炭貨車輸送、送電線系統、河川利水設備)の見学を行い、南部チェンナイにある当社タービン発電機製造工場とその近郊の機器積出港を視察して、インド電力事情の全般を幅広く学んだ。

今回のインド滞在は、その研修成果を踏まえ2014年10月～2015年3月の期間、北部・南部に当社が建設中の発電所に関し、顧客との定例会議、官公庁の申請認可、建設所での会議、日印間の業務調整を目的としたものである。その一環として、1週間単位の国内出張に3度行っただが、3度目の旅程中に本年はガンディーが南アフリカから帰国した節目の年で100周年を迎えることを知った。

インドの新聞には“Celebrating 100years of Mahatma Gandhi’s Return to India”との記事が掲載されている。グジャラート州生まれのガンディーは、インド帰国後、汽車に乗り込み「インド、大きな旅、長い旅」をはじめた。ガンディー46歳の時である。アーメダバード、ムンバイ、チェンナイ、ハリドワール、ヴァーラーナシー、コルカタ等インド全国を訪れ、各地の風情を知り、人々の暮らし向きを知り、地方の文化を知り、母なる大地インドを肌で感じながら旅を続けたのだと思う。そのような中、日印協会への寄稿という貴重な機会をいただいたので、今回のインド滞在をガンディー帰国100周年と重ね合わせ、私の「インド、小さな旅、長い旅への想い」と題して紹介させていただく。

## ■インド国内出張の心がけ5箇条

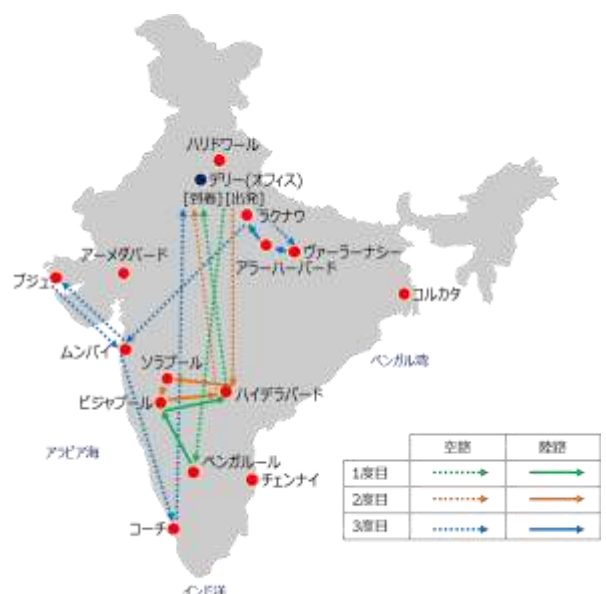
いつも国内出張の計画を立てるときには、顧客との日程調整・天候不順の日時変更・交通手段の時間遅延を考慮している。その上で、次の心がけ5箇条を守り安全を最優先して行動している。

- ① 緊急連絡先・関係者の連絡先を含む行動計画表を詳細に作成し、関係者・同行者に配布して共有する。
- ② 荷物を極力少なくするため、受託荷物は小型の1個に限定し、自分で決めた7つ道具を手荷物に入れておく(7つ道具は、パソコン、携帯電話×2、財布×2、化粧道具、道路地図、筆記用具、電子書籍)。
- ③ 陸路の移動中は車中時間が長いため、ホテルで飲食物を用意し、3-4時間毎に休憩して食事をする。
- ④ 報告書は空港の待合室と機内でできるだけ書き、ホテルに到着後、報告書をまとめて関係者に送付する。
- ⑤ 単独行動・予定外行動は避ける。万が一、予定外行動が発生した場合は速やかに関係者に連絡する。

## ■インド、3度の訪問地・旅程と概略図

1度目、2度目はデカン高原縦断・横断への旅程であったが、簡潔に旅程のみ述べる。

1度目の旅程(2014/10/16～10/21)は、デリーからベン



ガルールへ空路で行き、認可取得のため労働監督署を訪問し、その後、陸路でビジャプールの建設所で顧客との会議・工事進捗の視察を行った。そこから陸路にてハイデラバードへ行き、顧客南部代表者を訪問した後、デリーへ空路で戻った。

2度目の旅程(2014/11/10～11/15)は、デリーからハイデラバードへ空路で行き、車で移動してソラプール経由でビジャプールの建設所に移動した。建設所でタービン発電機台座式を実施し、その後、陸路でハイデラバードに戻り、空路でデリーへと戻った。(台座式の詳細については後述する)

### ■3度目、北インドからアラビア海沿いへの旅程

#### ■ 12/28(日) デリーからヴァーラーナシー経由アラーハーバードへ

朝7時にデリー空港へ到着すると、飛ぶはずの飛行機が濃霧のため突然変更になり、空港のロビーは乗客で立錫の余地もないほど混雑していた。それでも我々の飛行機は5時間遅れで出発した。1時間程でヴァーラーナシー空港に到着し予約してあった車に乗り込み、4時間かけてアラーハーバードへ移動したが、ホテルに到着したのは夜9時を回っていた。

#### ■ 12/29(月) アラーハーバード市内顧客訪問

私と一緒にグルガオンから来たインドスタッフの同僚とともに顧客CEOと建設資金についての面談を行った。発電設備の機器出荷状況説明と資金回収改善のお願いをし、CEOは担当者に指示を出して年明けには善処すると約束してくれた。その後、ヤムナー川、ガンジス川が交差する川辺へ行った。ここは12年に1度乾季の1月～2月に大沐浴があり、全国から約3千万人が集まる聖地であるが、400トンの当社発電機もガンジス川をコルカタから1,500km 舁で上り、この川辺の仮設栈橋にて荷揚げして建設所まで輸送した場所である。

#### ■ 12/30(火) アラーハーバード市外、建設所視察からラクナウへ

朝8時にホテルから1時間かけて建設所へ移動した。現場は岩石の多い地質のため採掘作業が発電所建設と並行して進められている。建設所で顧客と面談し、建設の進捗・工事の工程を話し合った。午後5時にラクナウへの移動を開始した。インドの運転手の言う通り走れば5時間後の夜中10時にはホテルに到着する予定が12時を過ぎていた。途中の村落で飲んだチャイが身も心も温めてくれた。

#### ■ 12/31(水) ラクナウからムンバイへ

州都ラクナウは歴史的なイスラム建築と議事堂などの政治機関が目立つ。旧市街地にある顧客事務所を表敬訪問した後、空港に行った。その道中、英国総督代理のために1800年に建てられた公邸の跡地レジデンシーに立ち寄った。ここは1857年のセポイの反乱の舞台である。飛行機で2時間半かけてラクナウからムンバイに移動し宿泊した。

#### ■ 1/1(木) ムンバイからブージュヘ ムンドラ街へ

早朝の飛行機で1時間半かけてグジャラート州ブージュに飛ぶ予定だったが、またも濃霧の影響で予約していた便はキャンセルとなり1日に2便しか出ていない残り1便に予約を取り直した。午後3時に離陸し4時にブージュ空港へ到着した。空港からホテルまでは車で2時間、整備された2車線道路の左右に土漠が果てしなく広がり、灌木がまばらに生えていた。ホテル近くにはかつての小藩王国で城壁に囲まれたムンドラ街がある。城門をくぐるとごみごみした狭い道路の両脇に様々な店が立ち並んでいる。新年を祝して手乗りガネーシャ像を買った。

#### ■ 1/2(金) ムンドラ発電所視察からムンバイへ

ムンドラ街のホテルを午前8時に出発し、10時からタタ・ムンドラ発電所を顧客の案内で視察した。インド最大級の発電所であり、当社が納入したタービン発電機が5基一列に並ぶ姿は圧巻であった。今回、



初めて海岸沿いの発電所を視察したが、ボイラー最上階 90m から、集塵機、煙突、開閉所、海水取水設備、水処理施設、運炭設備、灰処理設備と発電所全体を眺めた時、その規模に感動

建設中発電所全景(2009 年)



完成後発電所全景(2012 年)



した。ここから送電線でグジャラート、マハーラーシュトラ、パンジャブ、デリー、ハリヤーナに電力が送られる。電気も旅しているのだ。その後、車で1時間半移動し、顧客の薦める空港近くのグジャラート料理を楽しんだ。その日はプーヅ空港からムンバイへ戻り、夜はムンバイのホテルに泊まった。

### ■ 1/3(土) ムンバイからコーチへ

午前11時、ムンバイからコーチに飛行機で2時間半かけて移動した。年始休暇をここでとることにしたのだ。ホテルへの道中、バックウォーターの岸边には椰子の木とマングローブの木が茂りあい、緑の帯を成している。ホテル到着後、その夜はインド民族舞踊カタカリを楽しみ、強烈な化粧と豊かな表情が鮮烈に残った。遅い夕食は南部インド料理で香辛料が効いたカレーと久しぶりの海鮮料理を楽しんだ。

### ■ 1/4(日) コーチからデリーへ

午前10時からホテルを出て、フォート・コーチ・ビーチとチャイニーズ・フィッシング・ネットへ向かった。街の古い歴史や風俗を現した看板が目に入る。この時期にビーチは海水浴を楽しむ人々に溢れていた。その横で漁師の掛け声で引き上げる定置網のなかに魚が輝き、露天商が椰子の実、サリーの布地、装飾品を売っている。近くの通りに教会が立ち並び、そのなかにはヴァスコ・ダ・ガマの墓がある。コーチ空港で、旅行の思い出に大枚5千ルピーをはたいて『全インド写真集』と『ガンディー語録集』を買った。明日からの仕事への鋭気を養うひとときであった。コーチから飛行機で3時間かけデリーに戻ったが、夜間11時の外気は3℃で寒さに身が震えた。

## ■タービン発電機台座式

インド駐在員の間では代々、インドで生活していくためには“アセラズ・アワテズ・アキラメズ”という言葉が受け継がれているようだ。

今回の台座式前日は、天候不順で雨が降り、風が吹き、雷が鳴り、用品手配は誤発注があり、遅延があり、未手配があり、作業員は指示を聞かず、時間を守らず、汗をかかず、その上私の衣装のサリーが合わず、私は頭を抱え途方に暮れた。宮沢賢治の「雨ニモマケズ、風ニモマケズ」の一節が心に響き、ここは我慢のしどころと自分に言い聞かせた。

台座式当日は、朝から小雨が降り注ぐ中、現場の準備をひとつひとつ確認し、お願いし、本番直前まで動きっぱなしであった。こちらの必死さが伝わ



ったのか、インド人作業長が率先して働き、作業員も続き、一気に舞台が整った。インド人もやればできる、捨てる神あれば拾う神ありだ。

台座式本番では一転して、風が止み、晴れ間が見え、拍手が起こり、顧客も笑顔で、私は司会の席から会場を眺めつつ嬉しさが込み上げた。プージャがあり、挨拶があり、ボルト締めがあり、山場であるダルマの目入れは、顧客と協同で執り行わ

れ、会場が最高に盛り上がった。

式次第も全て完了し、顧客幹部から「ご苦労さん、よくやってくれた」と握手を求められ、やっと肩の荷が下りた。記念の写真撮影で、中央でダルマを抱えて写らせていただいた時、アセラズ・アワテズではなかったが、アキラメズの気持ちで最後までやり通したことによる達成感に包まれた。

今回の経験を通じて、インド事業におけるプロジェクトの構想・契約・計画・実行・完成に至るどの過程でも組織のリーダーとしてやり遂げられるよう、日々新たに、日々成長なりと誓った。



## ■おわりに

今回の3度の旅程を振り返ると次の3つのことが強く印象に残った。

- ① インドは「悠久の大地」といい、時間もゆっくり流れるというが、私の場合は1週間の7日間は短すぎる。昔、月月火水木金土といったそうだが、私は月月火水木金土日と9日間が欲しい。それは、インドは雄大な大陸国家・海洋国家であり、州単位で急速に発展・進化し、国全体として歴史的変化の時を迎えているからだ。
- ② インドの実情を理解するためには「百聞は一見に如かず、十見は一行に如かず」だ。10回は耳で聞いて頭に留め、5回は目で見て手で書き残し、1回は足を運んで体感しなければ本当のことは解らない。
- ③ ガンディーが今日のインドを見たら何と言うか自問自答してみた。「いつの時代にも変化はある。恐れることはない。その変化の中心に人々がいて変わるものと変わらないものを決めるのだ」との言葉が浮かぶ。

日印協会学生会員時代より、平林理事長をはじめ日印の先達の皆様からご指導を受けるなかで、日印友好のために末席ながらも尽力することを決意した。そのためにも日本をもっと知りインドの人々と語り、インドをもっと知りインドの人々と語り合うことの必要性をご教示賜り、このような機会を与えていただいた関係者の皆様にこの場を借りて感謝申し上げたい。そして、この小さな旅がいつまでも続き長い旅となるよう、強いインドへの想いで何事にも立ち向かい、インドの発展と日印友好のために微力ながらも仲間とともに貢献していきたい。

## 〈筆者略歴〉 大木 香奈（おおぎ・かな）



徳島県徳島市出身

2010年 大阪大学大学院国際公共政策研究科 入学

大阪大学国際問題研究会(SWADOM)設立

2012年 株式会社 東芝 入社

電力システム社 火力・水力事業部 海外火力営業第三部 海外営業第五担当



## 2. インドニュース (2015 年 1 月) News from India

### I. 内政

1月1日

- 1日、インド内閣府、首相府及び計画委員会のプレスリリースによれば、インド政府は、計画委員会の後継組織として、インド政策委員会 (NITI Aayog) の創設につき閣議決定した。

メモ:

インド政策委員会(NITI Aayog: ヒンディー語でNITIは政策、Aayogは委員会の意)は政府のシンクタンクであり、中央政府レベルと州政府レベルの双方に対して、様々な政策課題に関し、戦略的・技術的な助言を行う組織とされる。組織構成は、全ての州首相及び連邦直轄領準知事からなる運営委員会(Governing Council)、任期を区切って首相が招集し、関係州首相及び連邦直轄領準知事からなる地域理事会(Regional Councils)及び首相の任命により参加する専門家や実務家等の特別メンバーから成る。

メンバーは委員長(首相)、副委員長(首相により指名)、常任委員、非常任委員、職権上の委員(最大で閣僚4名、首相により指名)、CEO、事務局(必要に応じ設置)で構成される。5日付首相府の発表によれば、以下の人物がメンバーに任命された。

・副委員長: アルビンド・パナガリヤ氏(経済学者、米国コロンビア大学教授)

・常任委員: ビベーク・ベブロイ氏(経済学者、政策研究センター(CPR)教授)、  
V.K.サラスワト氏(元国防研究・開発次官)

・職権上の委員: ラージ・ナート内務大臣、アルン・ジャイトリー財務大臣、スレーシュ・プラブー鉄道大臣、  
ラダ・モハン・シン農業大臣

・特別メンバー: ガドカリ道路交通大臣、ゲロート社会主義・能力開発大臣、イラニ人的資源開発大臣

1月12日

- 12日、インド選挙管理委員会は、デリー準州議会選挙(全70議席)の投票は2月7日に実施される旨発表した。開票は、2月10日に行われる予定。

1月22日

- 22日付タイムズ・オブ・インディア (TOI) 紙他は、予算国会の日程につき概要以下のとおり報じている。

2月23日～3月20日 会期前半

2月23日 大統領による演説

2月24日～25日 大統領演説に対する感謝動議に関する審議

2月26日 鉄道予算提出

2月27日 エコノミック・サーベイ提出

2月28日 一般予算提出

3月21日～4月19日 休会

4月20日～5月8日 会期後半

1月28日

- 28日、内閣任命委員会事務局は、スジャータ・シン外務次官の任期終了とジャイシャンカル駐米インド大使の新外務次官任命を発表した。

メモ:

各種報道によれば、シン外務次官は外務次官としての任期を縮小しての任期終了となる。ジャイシヤンカル新外務次官は、ロシア語が堪能であり、ロシア及び中央アジア関係に最も精通する外交官の一人であるとともに、中国とのネットワークも有しているとされる。過去1年にわたり、駐米大使として、対米関係を好転させ功績を上げてきたとされる。2013年12月にコブラガデ事案で対米関係が悪化した際に米国に渡り、2014年9月のモディ首相の訪米を指揮したのに続き、本年の共和国記念日の主賓としてオバマ大統領を招待するという自身のアイデアを実現させたとされる。

## Ⅱ. 経済

1月8日

- 7日付ヒンドゥスタン・タイムズ紙は、インドにおいて、中等教育段階における中退率の高さに対応するために生徒の就職を手助けすることを目指す取組が進んでいることについて報じている。インド国内において、最近、中退者が非正規労働に吸収されることが多いことから、分野別技能委員会の証明書や職業教育コースを履修させることで正規労働の機会を確実に得られることを目指す取組が行われている。

メモ:

同報道によれば、2012年にハリヤナ州の40の学校で開始された取組が、現在では、同州の240の学校で展開されており、約2万3,000名が参加しており、全国的には、1,190の学校、約9万名の生徒が参加している。インドの分野別技能委員会は各州の公立学校について、職業教育の質に関する評価に着手し、更なる職業教育の導入を促している。

1月9日

- 9日付TOI紙他は、8日及び9日にコルカタで開催された西ベンガル州政府投資誘致サミットにつき報じている。1日目の会合では、ジャイトリー連邦政府財務相とバナジー西ベンガル州首相が、政治的立場の違いを越え、西ベンガル州及びインドの経済発展に協力する姿勢を表明。同サミットには、同州の企業トップを中心に多くの経済人が参加した他、日本、米国や英国等の約20カ国からも経済人が参加。一方、インドの大企業の多くは欠席した。バナジー州首相によれば、2日間のサミット開催中に、計2.43兆ルピーの西ベンガル州に対する投資が表明された。

1月22日

- 22日付TOI紙は、同日、モディ首相は、不均衡な男女の出生率に対処するため、女兒の出産及び教育を奨励する「女兒救済・女兒教育スキーム」(Beti Bachao, Beti Padhao)及び「女兒繁栄スキーム」(Sukanya Samridhi Yojna)を開始した旨報じている。ハリヤナ州で行われた開始式には、モディ首相の他、ガンディー女性・児童育成相やイラニ人的資源開発相等が出席した。モディ首相は、開始式における演説で、21世紀のインドにおいて女兒の堕胎が横行している現状に鑑み、現在の男女比の不均衡が続いた場合の影響を考え、女兒の堕胎をやめ、女子にも教育を受けさせるべきであると主張した。

メモ:

「女兒救済・女兒教育スキーム」は、ジェンダー的偏見による男女の産み分けのための中絶を防止し、生まれてきた女兒を保護するとともに、女兒に対する教育を確保することを目指している。「女兒繁栄スキーム」は、女兒が誕生から10歳になるまでの間に、親等が女兒の名前で銀行口座を開設することを可能にするもの。女兒が18歳に達すれば、高等教育や結婚のために、口座残高の半分を限度に、当該女兒は預金を引き出すことができ、また、同口座は口座開設後21年で満期となる。所得税は課税されない。



### Ⅲ. 外交

1月8～9日

- 各紙報道によれば、8～9日、在外インド人大会がグジャラート州において開催され、約4,000人の海外居住インド人が参加。ガイアナ大統領が主賓として出席した他、南ア外相、モーリシャス副総理が出席し、モディ首相と会談を行った。

1月11～13日

- 各紙報道によれば、11日～13日、グジャラート州において、第7回バイブラント・グジャラート(投資誘致を目的とした同州主催イベント)が大々的に実施され、モディ首相が挨拶を行った。
- モディ首相は、10日～11日、本件行事に参加した以下の各国要人と個別に会談した。  
潘基文国連事務総長、ケリー米 국무長官、高木経産省副大臣、キム世銀総裁、トブゲー・ブータン首相、マケドニア首相、ポーランド副首相、英貿易・投資相、カナダ市民権・移民相、豪貿易・投資相、シンガポール第2貿易産業相、イスラエル農業相、イラン大統領顧問、ロシアの州知事

メモ:

本件行事には、120カ国から約2,500名、総勢約8,500名が参加。国内の財界トップが多数参加し、リライアンス・グループは1兆ルピー、ビルラ・グループは2,000億ルピーの同州への投資を行うことを発表。

1月17日～19日

- インド政府発表によれば、17～19日にかけてサマラウィーラ・スリランカ新外相が、就任早々、初の外遊先としてインドを訪問。18日、同外相は、スワラージ外相との会談にて、インドを最初の訪問先に選んだことは、新政権のインド重視の現れであると述べた。
- 19日、モディ首相は、サマラウィーラ外相に対し、スリランカ大統領選挙(8日)が成功裏に実施され、シリセーナ大統領が勝利したことを賞賛し、スリランカとのパートナーシップを維持していく旨述べた。モディ首相は、シリセーナ新大統領がインド訪問の招待を受け入れたことに感謝し、早期訪問を楽しみにしていると述べ、スリランカ訪問の招待も受け入れた。

メモ:

スリランカでは、1月8日に大統領選挙が行われ、現職のラージャパクサ大統領が敗北し、シリセーナ野党統一候補が勝利した。報道によれば、モディ首相のスリランカ訪問は、2月のシリセーナ大統領の訪印後、3月に行われるかもしれない。同訪問が実現すれば、1987年にラジブ・ガンディー首相(当時)が訪問して以来のインド首相による訪問となる。

1月19日～23日

- 各紙報道によれば、ミャンマー副大統領が、アンサリ副大統領の招待でインドを訪問。

1月21日

- 各紙報道によれば、21日、ショイグ露国防相がパリカル国防相との間で軍事技術協力に関する政府間委員会を実施するためインドを訪問。

1月25日～27日

- 政府発表によれば、オバマ大統領は、25日～27日、米大統領としては初となるインドの共和国記念日行事の主賓として、インドを訪問。
- 25日、モディ首相は、訪印したオバマ大統領と首脳会談を行い、共同声明「共有された取り組み：皆のための進歩」、印米デリー友好宣言、及びアジア太平洋・インド洋地域のための共同戦略ビジョンを発表した。

メモ:

共同声明「共有された取り組み：皆のための進歩」の概要

【二国間関係全般】

・「印米デリー友好宣言」を通じて関係を強化。

（上記宣言において、より頻繁な定期的首脳会談の開催、戦略対話の戦略的・商業的対話への格上げ、両首脳間のホットラインの創設に合意）

・アジア太平洋・インド洋地域の両国の取組を先導する「共同戦略ビジョン」を発表。

（同ビジョンにおいて、南シナ海における海上安全保障等の重要性を確認。インドのAPEC加盟への関心を歓迎）

【防衛・安全保障】

・共同開発・生産を通じ防衛技術協力の新分野の開発へ向け、防衛技術・貿易イニシアティブ(DTTI)の重要性を強調。モディ首相は、米国防省のDTTI推進に特化したチーム設立を歓迎。DTTI協力が更なる共同事業に繋がっていくことに期待。

・インドに防衛産業基地を設立するための取組の協力に合意。

・両国海軍が協力拡大のための具体的分野の特定に向け議論を継続していくことに合意。マラバール訓練の格上げへのコミットメントを再確認。

【経済、エネルギー、気候変動】

・開発のためのパートナーシップを強化し続けることで一致。

・二国間投資の増加及び投資環境整備のためのコミットメントを確認。高水準の投資協定の可能性を検討するよう指示。

・両首脳は、民生原子力協力のための原子力責任及び行政取極に関する問題について達成された理解を歓迎し、米国製の原子炉がインドのエネルギー安全保障に早期に貢献することを期待。

・インドは、太陽光エネルギーを拡大し、再生可能エネルギーのシェアを増加させ、米国は、クリーン・エネルギー協力を通じて支援。

・本年のモンテリオール議定書において具体的な成果を生み出すべく協力することで一致。

【地域・国際情勢】

・インドによる南アジア及び東南アジアでの連結性強化の取組を含め、両国が協働可能な追加的な分野を開発することで一致。

・プロジェクトの特定及び早期実施を通じた三か国間協力の重要性を強調するとともに、外相間の日米印協議の開催を模索することを決定。

・国際輸出管理4レジームへのインドの段階的な加盟に向け協働し続けることに合意。

・オバマ大統領は、国連安保理改革及びインドの常任理事国入りへの支持を再確認。

#### IV. 日印関係

1月9～13日

- 経産省発表によれば、高木経済産業副大臣は、9～13日まで、インドを訪問し、グジャラート州にてバイブラント・グジャラート(P. 9 参照)に出席し、モディ首相や州政府関係者と会談を行った。また、アンドラ・プラデシュ州において、ナイドゥ州首相との会談のほか、同州政府、シンガポール政府と新州都開発に向け協議した。

1月16～18日

- 外務省発表によれば、16日、インドを訪問中の岸田外務大臣は、モディ首相を表敬した。モディ首相から、安倍総理との個人的な信頼関係は自分にとっての宝、対印投資促進に向けた安倍総理の尽力を評価、今回の訪問を通じ先般の自分の訪日時に話し合われた内容が具体化されることを期待する旨の発言があった。



〈モディ首相との会談〉

出典；外務省ホームページ

URL [http://www.mofa.go.jp/mofaj/s\\_sa/sw/in/page4\\_000900.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/s_sa/sw/in/page4_000900.html)

- 17日、インドを訪問した岸田外務大臣は、スワラージ外相との間で第8回日印外相間戦略対話を実施した。同対話では、北東州の開発を含む地域連結性強化やインフラ分野での協力、原子力協力、その他の二国間関係全般、国際場裡での協力、戦略的な地域協力、地域情勢等、意見交換を行った。また、同日、岸田大臣は、世界問題評議会において、「インド太平洋時代のための特別パートナーシップ」と題する政策スピーチを行った。



〈スワラージ外相と〉

source; Face book of Ministry of External Affairs, India

今月の注目点: オバマ米大統領の訪印

オバマ米大統領は、1月25日～27日、米大統領としては初となるインドの共和国記念日行事の主賓として、インドを訪問した。

2013年12月に在ニューヨーク印総領事館次席領事が米国当局により逮捕された事件を受け、その後の印米関係は冷え込んだ。2014年5月のモディ政権誕生後、印米関係が進展するか注目されたが、昨年9月30日の印米首脳会談(於: ワシントン)が成功裡に実施され、両国は関係構築に成功した。今回の首脳会談は、前回首脳会談から、わずか4ヶ月後の会談であったが、更に関係を強化するものとなり、印米関係は、約1年前に比べ、質的な転換を遂げたと言えよう。今次訪印直後には、昨年9月のモディ首相訪米と今次オバマ大統領訪印を駐米インド大使として指揮してきたとされるジャイシャンカル駐米インド大使が外務次官に抜擢され、今後も同次官が印米関係の構築に努めていくことが予想される。

今回の成果として、アジア太平洋やインド洋地域における両国の取組のビジョンを示した「共同戦略ビジョン」が発表され、また、より頻繁な定期的首脳会談の開催、防衛・安保分野や経済分野での協力強化などで一致した。特にインド側が重視してきた原子力協力について、モディ首相は、首脳会談後の共同記者会見において、民生原子力協定は我々の変化した関係の中心的存在であり、新たな関係を示すものであった、過去4ヶ月、この協定を前進させるために取り組んできた、法的義務や技術的・商業的実現性に一致した形で商業的協力に向かって動いており嬉しいと述べた。これに対し、オバマ大統領も、我々は原子力協力を進めるための我々の能力を阻止していた2つの課題について、画期的な理解(breakthrough understanding)に達した、我々は完全な実施に向けて協働することにコミットしている、これは我々が関係強化に如何に取り組んでいくことが出来るかを示す重要なステップだと述べた。

オバマ大統領は、今次訪印中に行った演説にて「米印関係は、今世紀を定義づける関係の一つになり得る。米は印にとって単なるパートナーではなく、ベスト・パートナー」と述べ、また、モディ首相と共にラジオ放送を行う等、インド国民へ向けて両国のパートナーシップをアピールした。

### 3. イベント紹介 Japan-India Events

#### =◇ 最近のイベント ◇=

##### ◆第36回 様々なインド 『こだわり旅行屋が教えるインドの美味しいお話し』

1月23日(金)に、会員の宮本洋子さんを講師にお迎えし、今年最初の“様々なインド”を開催、インド旅行のお話しをして頂きました。宮本さんは、本業の宝石商の関係で、インドへ宝石ツアーを企画・催行をされたのを契機に、インド専門旅行会社を始め、「インドの食わず嫌いを直す!!」ツアーを、多く実施されてきました。

今回は、所謂有名な場所の話は勿論、益々進化する各地のホテル事情やサービス内容や豊富なイベント(リサイクル・天然素材の紙を使用しているホテルでの紙漉き実演なども一例)、現地で味わう本格インド料理や和食、インド国内チェーン店等々についても解説して頂きました。また出版物やスライド等





で、美しい南インドの模様もご紹介頂きました。プランテーションでのナツメグやカルダモン等のスパイス栽培の様子などのお話も勉強になりました。質疑応答では、宝石商でもある講師にインドでの石(宝石・ルース)の話や買い方の注意や、ホテルの防災レベルについても伺いました。最後には、有名ホテルのカレンダーも多くの方にプレゼントして頂き、美味しい話を皆様満喫されました。講演後の懇親会も盛り上がり、スバス・チャンドラ・ボース誕生日も祝しました。

講師始め皆さん有難う御座いました。

#### ◆第 66 回インド共和国記念式典



2015 年 1 月 26 日(月)に、第 66 回インド共和国記念日を祝する駐日インド大使館主催の式典が、ホテルオークラで盛大に開催されました。日印協会も、平林理事長はじめ、多くの日印協会法人・個人会員がご招待を受け、参列しました。

ワドワ駐日インド大使閣下はじめインド大使館の要人が出迎える中、インドに縁深き日本の企業、著名な方々が、参列されました。この式典には、例年大使の他、筆頭公使と駐在武官が入口でお出迎えの挨拶をされ、招待客は順番待ちの長蛇の列を成し、思い思いに記念日への祝辞を述べられま

す。会場内は溢れんばかりの招待客で、それぞれに共和国記念御祝辞と共に親交を深められ、各国からの駐在武官は、着飾った軍服姿で参列され、ビジネスの世界ではなかなか見ることができない風景でした。

美味しいインド料理もふんだんに振舞われ、合間には日本人ダンサーによるインド古典舞踊も披露されました。式場内の大型スクリーンには、インド・ニューデリーでの式典模様が LIVE で放映され、モディ首相がインドの伝統的服装で登場、貴賓のアメリカ・オバマ大統領と固い握手をする場面が印象的でした。

また、式場で嬉しいニュースを耳にしたので、ご紹介致します。日印協会の三角佐一郎顧問(元専務理事)が、インド政府より Padma Bhushan 賞を授与されます。詳細は、改めてご報告しますが、授賞式は 5 月頃だそうです。とてもお目出度いことです。



〈共和国記念式典において  
握手をされるワドワ大使と三角顧問〉  
写真提供; インド大使館

#### =◇ 今後のイベント ◇=

#### ◆Holi Yokohama 2015 Festival of colors

今年で 3 回目を迎える、横浜でのホーリー・フェスティバルです。インドをはじめアジアの国々と日本の交流・友好をより深める架け橋となるイベントになる様、これまでにまして豊富な内容を企画しています。皆様のお越しをお待ちしております。

日時: 2015 年 4 月 10 日(金)~4 月 12 日(日) 10:00~21:00 (初日-15:00 より、最終日-21:00 迄)

会場: 横浜赤レンガ倉庫イベント広場 神奈川県横浜市中区新港 1-1

みなとみらい線「馬車道」または「日本大通り」より徒歩 6 分

入場: 無料 (イベントによっては参加費が必要になります)

主催: Holi Yokohama 2015 実行委員会

神奈川県横浜市港南区丸山台 1-11-15 キンショービル 1F

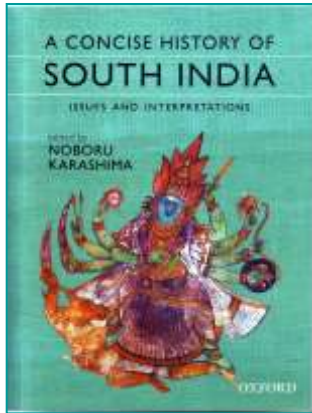
詳細・問合せ: 上記主催団体

公式ホーム・ページ URL <http://holifestivaljapan.com/index.php?FrontPage>

公式 face book <https://www.facebook.com/holi2015yokohama?fref=nf>

## 4. 新刊書紹介 Books Review

### § 『A Concise History of South India: Issues and Interpretations.』



編著者: Noboru KARASHIMA

発行: New Delhi: Oxford University Press, 2014, 472 pages.

価格: 995 ルピー ISBN 978-0-19-809977-2

Contributors: Toshie Awaya, Takako Inoue, Noboru Karashima, R. Mahalakshmi, Parvathi Menon, Tsukasa Mizushima, Nobuhiro Ota, P. Shanmugam, Miwako Shiga, Y. Subbarayalu, Keiko Yamada, Hiroshi Yamashita, Hauka Yanagisawa

本書は、南インドの古代から現代までを網羅した「通史」として、また世界的に名高い歴史学者で編著者の辛島昇の代表的著作として、これから長く世界中で読まれ続け、スタンダードな歴史書となるであろう重要かつ画期的な書籍である。実は、1955年にインド人歴史学者ニーラカンタ・シャーストリによって、ヴィジャヤナガル時代までを扱った『南インド史』が刊行されてから今日まで、信頼に足る「南インド通史」は刊行されてこなかった。その主な原因は、歴史叙述におけるパラダイム転換によって「大きな物語」が解体したことだろう。歴史を語る困難を克服するため、辛島昇を中心に彼の友人と弟子が一堂に会し、各々の専門分野の立場から刊行に向けて協力し、問題点や新解釈を率直に提示し、内容的に補完し合うことによって、「通史」としての本書が編まれたのである。評者がその一翼を担えたことは身に余る光栄であることを付記しておく。 井上貴子 記

#### 日印協会個人会員会費値上げのお知らせ

日印協会 代表理事・理事長 平林 博

平素より、日印協会へ格別のご協力とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、皆様には個人会費をお納めいただいておりますが、18年間会費の据置き、消費税増額、会報送付の郵送代値上げ、その他諸物価高騰などの理由で、現行会費での業務の維持発展が極めて困難となっております。

就きましては、大変に心苦しいお願いではありますが、下記内容にて個人会費の値上げをさせて頂きたく、宜しく願い申し上げます。

1. 個人会員：年間 8,000 円
2. 学生会員：年間 4,000 円
3. 入会金：現行のまま据置
4. 改訂時期：来る3月の理事会の承認を以て、2015年4月1日から改訂

以上

## 5. 掲示板 Notice

### ＜次回の『月刊インド』の発送日＞

今号は2-3月合併号ですので、次回発送は2015年4月10日(金)を予定しております。催事チラシの封入をお考えの方は、日程をご確認のうえ事務局までご連絡下さい。チラシを封入する際には、当該催事の協会会員に対する割引等特典の配慮をお願いしております。チラシ印刷の前にご一考下さい。

### ＜事務局からのお願い＞

新年度を迎えるにあたり、進学・転勤等によりご住所が変わられる方は、協会事務局までご一報下さい。転居先住所と共に、お電話・FAX・E-mail 等の変更もあるようでしたら、併せてご連絡下さい。海外発送も可能です。ご不明点等ございましたら、事務局までお問い合わせ下さい。連絡先は、本ページ、最下段をご参照下さい。ご協力をお願い申し上げます。

### ＜編集後記＞

時々、公開予定の映画の試写会の券を頂くことがあります。事務局内や関係者の方で都合がつけば見に行かせて頂いています。先日は、『女神は二度微笑む』と『フェラーリの運ぶ夢』の試写券を頂きました。関係者の方が鑑賞されたのですが、傾向の異なる映画(サスペンスものとほのぼのもの)ではあるがどちらもお金を払ってでも観る価値あり、との感想でした。編集子は、「お金を払ってでも」は、大事なポイント! と思っています。タダだから、はイケません。

日印協会も同じ。会費を払ってでも! というのは大事なポイントと考えています。お金を払ってでも『編集後記』を読みたい! もとい、本誌を読みたい!! と思って頂ける魅力ある誌面作りを目指して、試行錯誤の日々です。協会の活動や、『月刊インド』へのご投稿・ご感想・ご意見等、是非お寄せ下さい。お待ちしております。

ちなみに、上記の映画は、どちらも2月21日(土)公開予定です。ストーリー勝負のインド映画も、沢山日本に入ってくるようになったのは、嬉しい事です。詳細は、公式HP等でご確認下さい。

(記 渡邊裕子)



## 入会随時受付中



1903年、大隈重信、澁澤榮一らによって創設された日印協会は、これまで日印の相互理解の促進を目的として、両国の友好親善に関する事業を行ってきました。両国の友好関係を更に深める為にも、協会会員の獲得は重要な課題であると考えています。

インドに興味のあるお知り合いの方がいらっしゃいましたら、是非日印協会をアピールして下さい。ご希望により、当協会の活動に関する諸資料をお送りいたします。日印協会の活動に賛同して頂ける多くの法人会員・個人会員のご入会をお待ちしております。

☆年会費：個人 6,000 円/口  
学生 3,000 円/口  
一般法人会員 100,000 円/口  
特別法人会員 150,000 円/口

☆入会金 個人 2,000 円  
学生 1,000 円  
法人 5,000 円  
(一般法人、特別法人会員共に)

(2015年4月改定予定)

本誌に掲載致します投稿等は、執筆者のご見解・ご意見であり、  
当協会の見解を反映するものではありませんので、念のため申し添えます。

月刊インド Vol.112 No.2 (2015年2月20日発行) 発行者 平林博 編集者 笹田 勝義  
発行所 公益財団法人 日印協会  
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-1-14 スズコービル2階  
Tel: 03-5640-7604 Fax: 03-5640-1576 E-mail: partner@japan-india.com  
ホームページ: <http://www.japan-india.com/>

